

月刊ふし

12月号



《今月の表紙》

クリスマスカード イラスト

中学1年 M.O.さん

今号の内容

【特集】

美術「中2 私の世界」

美術「高1 平面構成」

家庭科「高1 ホームプロジェクト」

【連載】

67 回生 齊藤百恵「アイルランド留学記」

「中2 私の世界」

私って何だろう???

美術の中でも永遠のテーマである自画像。この課題では、自分の顔と、自分を構成するものをフレームの中に詰め込みました。趣味、勉強、部活、好物、おしゃれ、夢、悩み……。青春真っただ中の《私》の世界をご覧ください。



Hさんの作品



Tさんの作品



Hさんの作品



S さんの作品



N さんの作品



S さんの作品



〇さんの作品



Ｙさんの作品



Iさんの作品



M さんの作品



S さんの作品

「高1 平面構成」

課題

「気象現象」を

平面に表現しなさい

自分の中にあるイメージを、色彩と形で伝える課題です。生徒たちの想像は、ミクロの世界から宇宙まで広がっていきます。

イメージをしつかりと《伝える》ために、色彩や構図のプランを綿密に練り上げてから制作に取り組みました。



Mさんの作品

青空と彩雲



Sさんの作品

雪の結晶

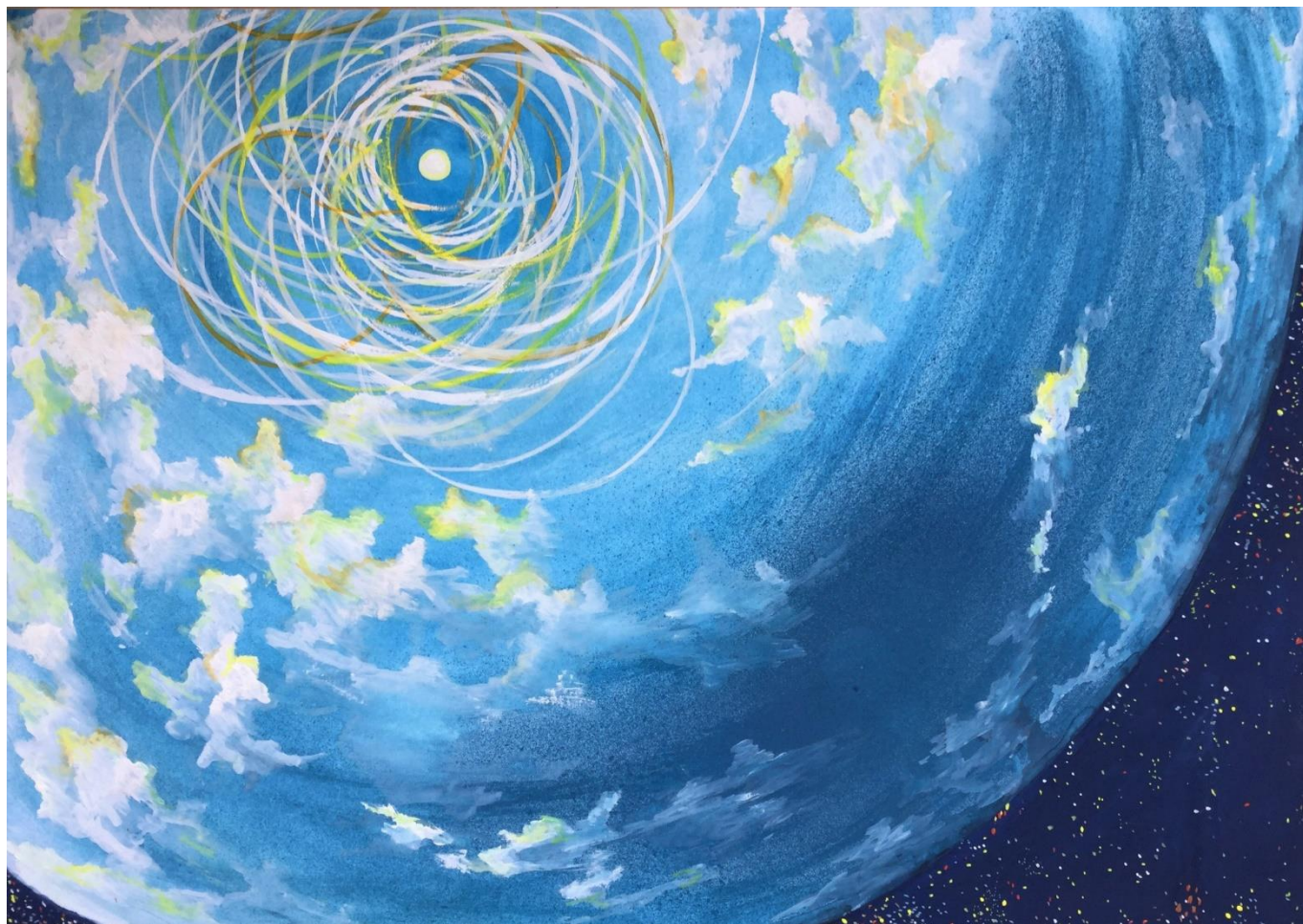


I さんの作品

波



S さんの作品
満ち欠ける月



Aさんの作品

晴れの日



Ｉさんの作品

竜巻



Hさんの作品

Starry Night

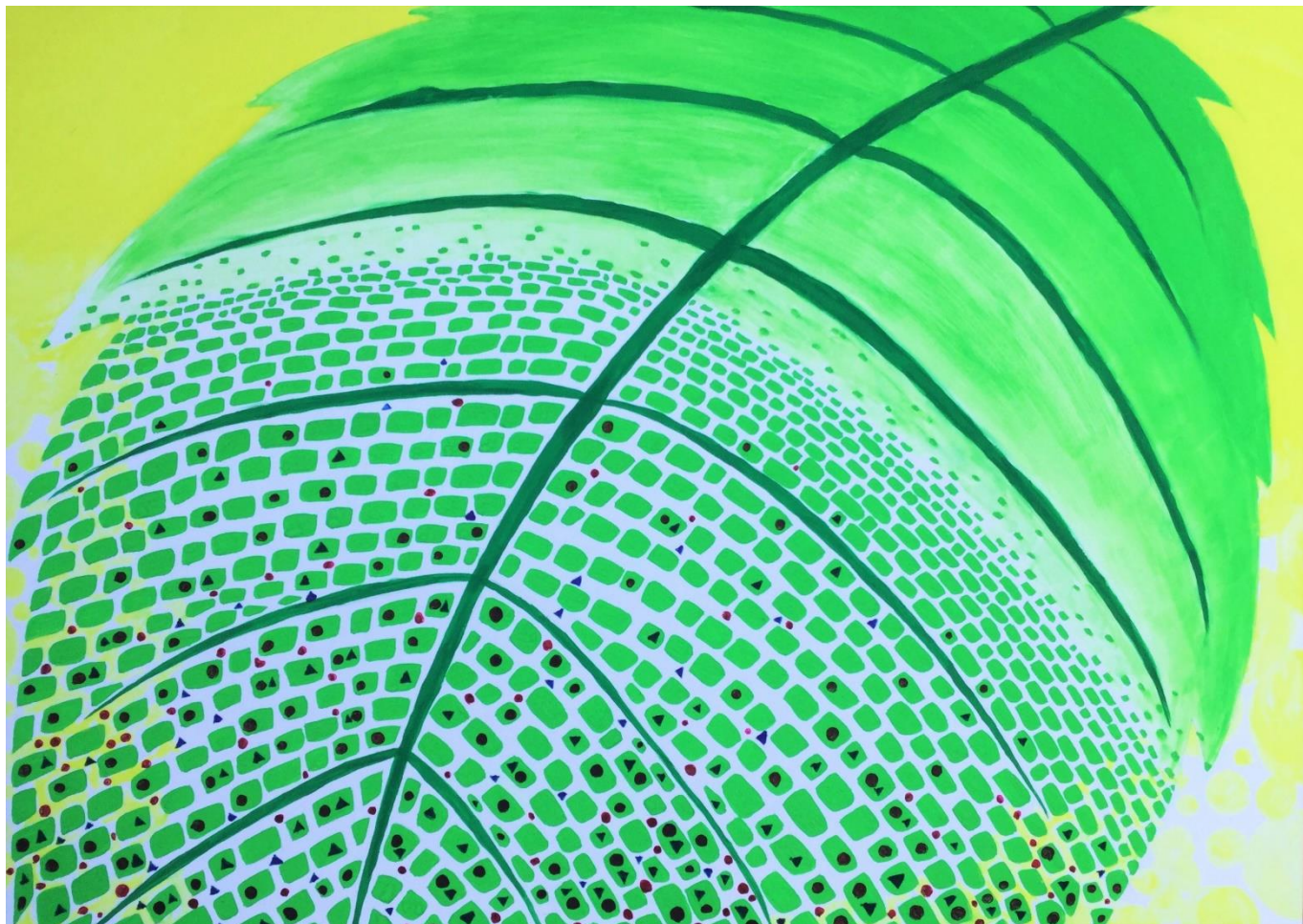


N さんの作品
プロミネンス



Ｙさんの作品

こいのぼり



K さんの作品

光合成



Ｉさんの作品

隕石落下



A さんの作品

夏の入道雲



S さんの作品
曇りの日の波

高1 ホームプロジェクト

「家庭の中での課題を見つけ、それを改善する」プロジェクトを、前号に続きご紹介いたします。

今回は、ダンスの中に眠っていた服をよみがえらせる試みです。丁寧な分析や考察に加え、真似してみたいくなる素敵な工夫がたくさん！ 皆さんもぜひご参考に。

着ない服を よみがえらせよう

久保木 真理

目次

- 1 テーマ設定の理由・・・p1
- 2 実態調査の方法・・・p1
- 3 実態調査とそこから見えた問題点・・・p1～p2
- 4 改善案・・・p3
- 5 実践記録・・・p4～p8
- 6 反省・評価・考察・・・p9～p10

1 テーマ設定の理由

ダンスに服がいっぱいになり、新しい服をしまふ場所がない！

服がいっぱいある割にはいつも同じ服を着てしまう現象が起こっている。

このホームプロジェクトを機会に服を仕分けして、思い出はしっかり残しつつ、それぞれの服を意味のある場所へ送り出し、ダンスをすっきりさせたいと思った。

2 実態調査の方法

①方法 ダンス内の服がどうなっているかを知るために、着る服、今後着ない服などに仕分け、枚数を把握する。(写真、表などにまとめる)

②日程 GW

3 実態調査とそこから見えた問題点

・実態調査

現段階でのダンスの中の様子(今回は特に衣類がひしめきあってる2段を選んで作業した)



Tシャツ	長袖 Tシャツ	カットソー	ブラウス	セーラーインナー	チアパンツ
21 枚	7枚	2枚	6枚	7枚	7枚

合計 50 枚

実際に枚数を数えてみて、思っていた以上に服が入っていたことに驚いた。

また、「この服ここにあったんだ」というものもあった。

・問題点1

枚数が多いうえに、しまうときにどんどん積んでいくので、下のほうにあるかどんな服があるのか覚えていない。

→同じものしか着ない現象

タンスの中の服を A 頻繁に着る服(普段着、練習着)

B 時々着る服(お出かけ用)

C ほぼ着ていない&もう着ない服

に仕分けてみる。



A: 13枚

B: 9枚

C: 28枚

・問題点2

タンスにいれっぱなしにしているCの服が全く有効活用されていない。

4 改善案

①方法、手順、記録

問題点1について

家族へのインタビューを行い、より良い方法を考える。

問題点2について

仕分けしたCの服を更に細かく分類し、それぞれを意味のある場所へ送り出してあげる。
(写真、イラストなどを用いてわかりやすくする)

<ねらい>

不用衣類を整理することによりタンスのスリム化を図る。

家族へのインタビューをすることにより、みんながどんな取り組みをしているかを知る。

また、不用衣類を安易に捨てるのではなく再活用方法などについても考える。

②日程 GW 後～夏休み前まで

5 実践記録

I

現在のタンスの中のカテゴリー別割合の表

C ほぼ着ていない&もう着ない服56%
B 時々着る服18%
A 頻繁に着る服26%

実態調査時に仕分けした3種類のうち、タンスの半分以上を占めているCの服について以下のように更に仕分ける。

C1 サイズアウト



C1: 14枚



次ページ
「衣服のよみがえり」へ!



C2 ヨレヨレ



C2: 7枚



C3 忘れられた服



C3: 7枚



サイズなども全く支障がないのでそのまま残し
頻繁に着る服と共に
タンスへもどす。

衣服のよみがえり



C1・C2
リメイク

C1
ゆずる

C2
リサイクル

チアの後輩や
近所の子に
まだ着れるものを
ゆずる。

もう着れないもの。
Tシャツを切るなど
してそうじ等の際に
利用する。



↑ウィックレワイパーと
同じ大きさにしてみた!

後輩には練習着の
Tシャツ&チアペン。
近所の子にはブラウスなど。
みんな喜んでくれた!!



↑郵便うけ
(ホコリがたまやすい)



窓ふき↑

C ほぼ着ていない&もう着ない服56%	
C1 サイズアウト50%	C3 忘れられた服25%
	C2 ヨレヨレ25%
B 時々着る18%	
A 頻繁に着る26%	

自分にとっての不用衣類、C1、C2を再活用したことによってタンスの中の42%分のスペースが生まれた。

II

C3の服を今後はもっと着るために

家族にインタビュー ～家族で一番几帳面な祖父に聞く～

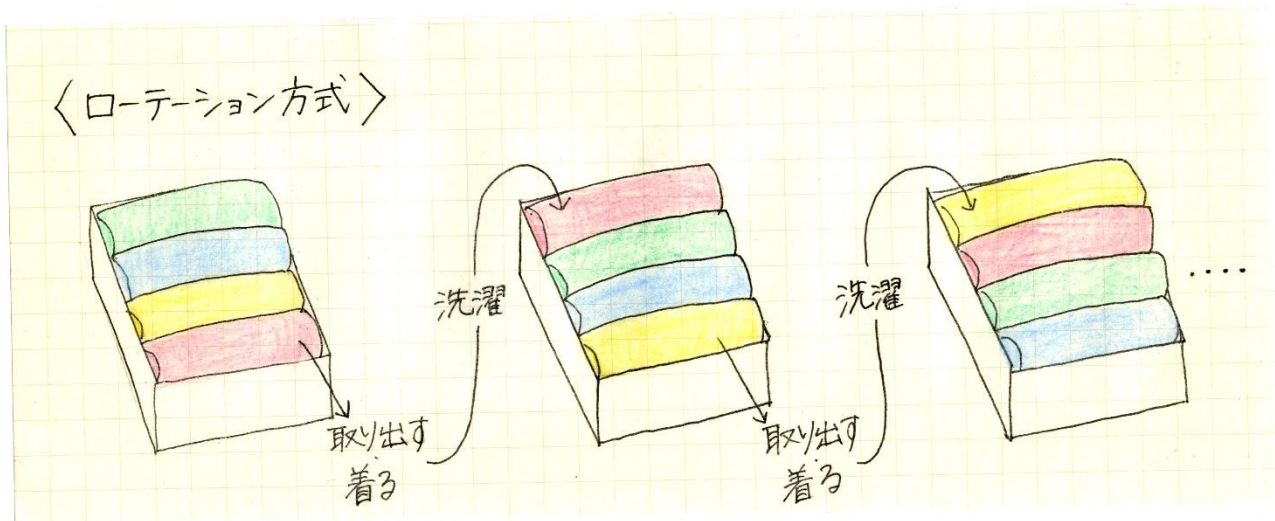
洗濯したものをしまうときに、タンスに平に積んである服の上に置いて、使うときにまた上から服を取っていたら常に2～3枚しか着ないことになるし、その2～3枚だけ傷むのも早いと思うよ。

タンスの中の服は平積みしないで、折って立ててしまう。

そうすることで、タンスを開けた時に服全体を見渡すことができるよ。

それから服をしまう時には奥にしまって、着るときには手前から取るようにして常にローテーションさせるといい。

そうすれば、タンスの中の衣類をまんべんなく着ることができるし、衣類も長持ちするよ。



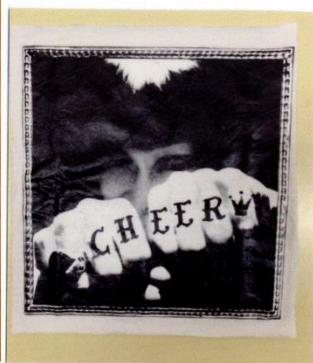
今まではタンスを開けた時に3枚程度しか見えなかった服が、折って立ててしまうことによって全ての服が見えるようになり、着る服を選ぶ時もパッと選びやすくなり時間短縮になった。

また洗濯物もしまいやすくなった。

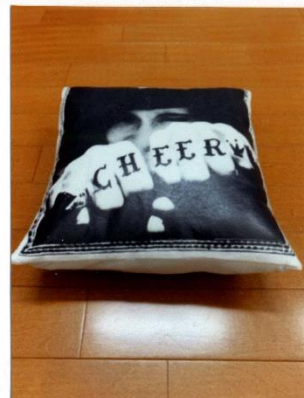
Tシャツをクッションに！

準備するもの Tシャツ 裁ちばさみ ミシン

①クッションの大きさに合わせてTシャツを四角くカットする。袖、首は切り離すように胸の辺りを使う。(前身頃)



④四辺を縫い終えたら、表に返し中にクッションを入れて出来上がり。



②裏面はクッションを入れる口を作るので、上下2枚に分けてカット。重なり部分は長めに。



③裏返しにして四辺を縫う。



不用衣類を使ってリメイク

Tシャツをエコバッグに！

準備するもの Tシャツ 裁ちばさみ

① Tシャツの袖を縫い目に合わせてカットする。



② エコバッグの取っ手になるイメージで首回りもカットする。



③ Tシャツを裏返し、裾に長さ5センチ、幅1センチの切り込みを入れフリンジ状にする。



④ 前身頃後ろ身頃で向かい合わせの切り込みを固く結ぶ。



⑤ 全て結んで T シャツを表にしたら出来上がり。



6 反省・評価・考察

①自己評価・反省

当初は、自分の部屋全ての服を仕分けし不用衣類をそれぞれ意味のある場所に送り出すことが目的であったが、自分が思っていた以上に服が多かったこと、時間が足りなかったことなどから調査と実施をタンス2段分に大幅に縮小してしまったことが反省である。

しかし、このプロジェクトを実施したおかげで、本来であればタンスで眠っているだけだった服たちが後輩のところへ行って、その服を後輩が喜んで着てくれていることなど嬉しいこともあった。そういった場面にあうと、このプロジェクトをやってよかったと心から思えた。また思い出深い服が身近で使えるグッズになってよみがえり、また自分のそばにいてくれることになったのも嬉しい。

『不用衣類』とは言ってもそのまま捨てるものは何もなかった。ヨレヨレになっていた服も掃除に使うなど使い道がまだまだあった。

今回はタンス2段分で終わってしまったプロジェクトだが、今後も衣替えなどの機会に少しずつこのプロジェクトを継続させ、最終的には部屋にある全ての服を意味のある場所へと送り出せればと思う。

②家族の評価・感想

30年前、私自身もホームプロジェクトを経験したが、その時の私よりも遥かに一生懸命にプロジェクトを遂行しようと頑張っていたことは素晴らしいと思った。ただ、本人も反省で述べていた通り、あまりに無謀な計画を立てて、計画倒れになっている感も否めなかった。自分の普段の生活時間がどのようなものであり、このプロジェクトに割ける時間は一体どれくらいなのか。まずはそこから考えるべきだったと思う。

計画を縮小して実施し始めてからは、順調に事を運んでいたと思う。特に、古着を掃除に活用し、家中の掃除をしてくれたことには深く感謝している。是非今後も時間を見つけて、窓ふき、窓の棧などの掃除をしてもらいたいと思った。

また、Tシャツのリメイクは楽しそうだったので、私も一緒に製作をしてみた。普段、あまり娘と作業することがないので、今回のホームプロジェクトは家族団楽のきっかけにもなりとても嬉しかった。

③今回の取り組みへの考察

反省で「部屋全体の服を仕分ける計画をタンス2段分に大幅に削減した」ことを挙げた。部屋全体の服を仕分けるとすれば相当な時間を必要とすることが今なら分かり、3か月程度の期間では到底無理であった。それを簡単にやろうと計画を立てた自分に呆れている。普段からこのようなことに関心を持って生活していないと、何にどのくらいの時間を要するかもわからず、計画すらまともにできないのだ。しっかりと計画することが出来なかった自分がいかに生活に無関心であったか、自分の無力さを感じた。

また、『不用衣類』と呼んでいた衣服たちも、まだまだそれぞれが輝ける場所があることがわかった。自分にとっては不用であっても使える(使ってもらえる)場所は探せばある。特にヨレヨレになった服は今後家事労働を手伝う時に積極的に掃除で生かしていきたい。

今回のホームプロジェクトでは服の仕分けはもちろん、この服は何に使えるだろうなどと考えることができたので、家事に対する意識も深まったと思う。そして、服をきちんと仕分けて、タンスをすっきりさせておくことは服をしまったり、服を選んだりする際には時間短縮にもなった。それらのことから、全ての家事はどこかで必ずつながっているように感じた。つまり、どこかの家事がつまると、どんどん玉突きのようにつまっていき家事が滞る原因になると思う。逆に一つ一つを丁寧に行っていけば同じ家事労働もスムーズに行え、最終的には家事労働時間の削減になっていくと思う。

「アイルランド留学記」

上智大学文学部新聞学科に在籍している、67回生の齊藤百恵さんの連載第2弾です。

今回は、大学の講義の様子をご紹介します。日本の大学との違いとは。クリスマスの街の美しい写真とともにお楽しみください。

みなさん、こんにちは。12月に入り、ダブリンの街中はクリスマスムード一色です。アイルランドはカトリックを信仰する人がとても多いため、クリスマスはみなさん気合が入るようです。

今日は少し大学の授業についてご紹介しますね。

私がこの大学の授業を受けてまず驚いたのは生徒の発言量の多さでした。

日本の大学では講義形式で教授が内容を説明していくのが主で、「教授」と「学生」の立場がはっきりしています（中高の授業もこんな感じですね）。しかし、こっちは教授と学生の関係がとてもフラットで、学生が教授に意見をする場面もとても多いです。ディスカッションの機会もとても多く、ただ話を聞いているのではなく、提示された問題に対して常に自分の意見を示す準備をしていなければなりません。ネイティブスピーカーたちに混ざってディスカッションをするのはもちろん簡単ではないため、うまく話せず日々落ち込んでばかりですが、いつか自信を持って発言できるように頑張ります。

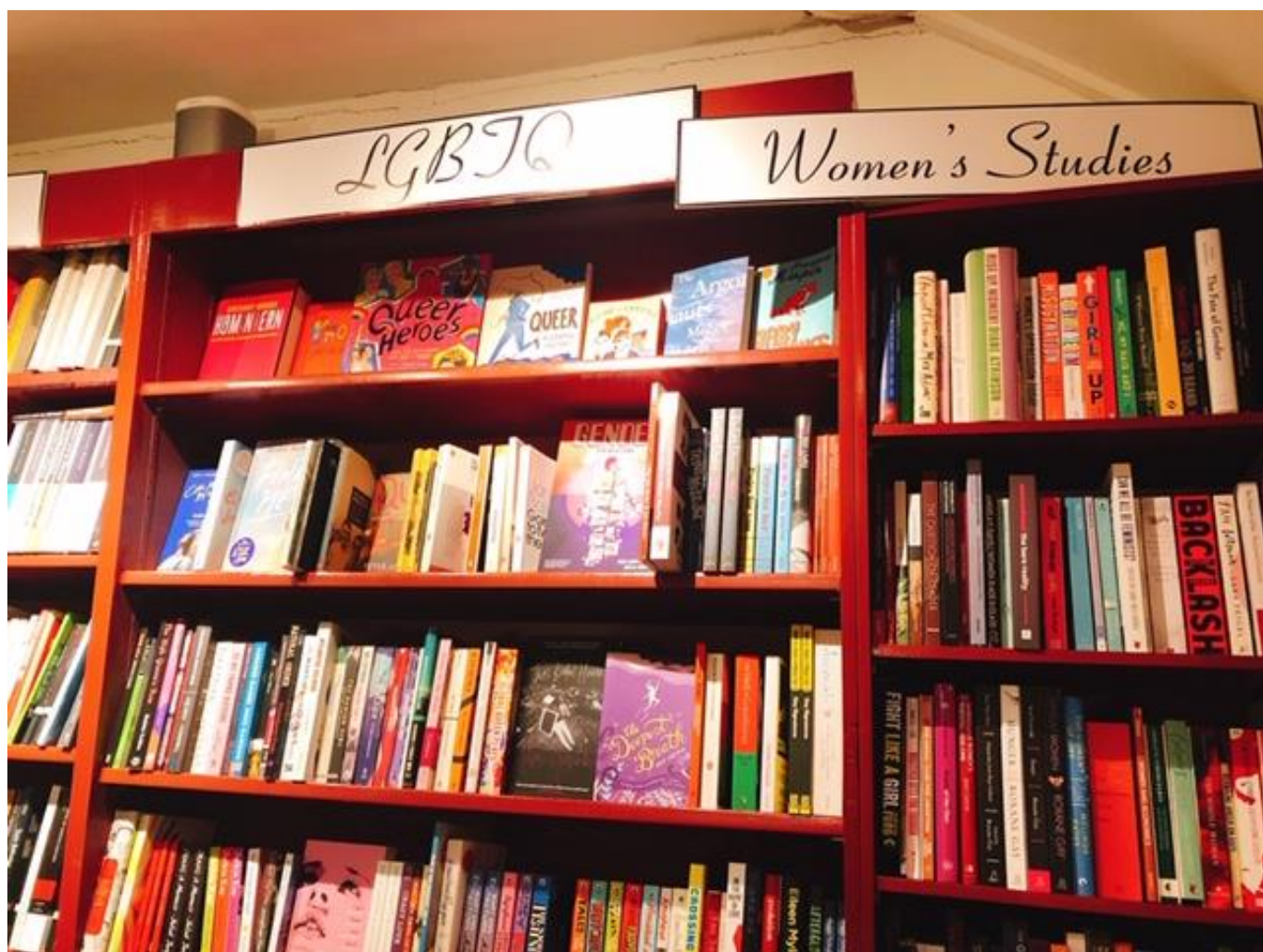


最も日本との違いを実感したのは授業内容です。こちらでは LGBTQ やフェミニズムなど、社会でマイノリティに属する人たちに関して学ぶ機会がとても多く、それらの問題に対する意識の高さを日々実感します。たとえば、ある授業では HIV 患者の男性をゲストスピーカーに招き、これまで彼らがどのような偏見を受けてきたか、そしてこれからどのように共存していくかについて講演していただきました。またある授業では性産業に従事する女性たちの権利について扱う機会もありました。

日本の大学ではなかなか扱われないこれらのテーマなので、最初はただ驚くばかりでした。しかし、逆に言えばこれまで社会的マイノリティに属する人たちにきちんと目を向けてそれを考えること、彼らについて思いを馳せることはなかったと反省しています。

「愛の反対は憎しみではなく無関心である」

藤にいた頃、マザーテレサのこの言葉をよく先生方から聞かされていましたが、今改めて、ダブリンでこの言葉の重みを痛感しています。



これから北海道はさらに寒さが厳しくなると思いますが、みなさん体に気をつけて素敵なクリスマスとお正月をお過ごしください。